

モデルコース② 修行の山・七面山と龍の守護神

修行の山の中で自然と祈りの力を感じる・七面山コース

徳川家康の側室である、お万の方が身を清めた羽衣白糸の滝から、表参道の各坊をたどり、七面山敬慎院を拝観し、裏参道(北参道)から七面山奥之院、角瀬の神通坊までを歩きます。登山道のため、一定の装備が欠かせません(各坊が営業しているシーズンを確認しましょう)。参詣道は、豊かな木々に囲まれた山中ですので眺望は限られますが、途中、北岳や南アルプスが眺望できる場所もあります。日の出を仰ぐ御来迎場や奥之院から眺める富士山は圧巻。敬慎院の朝勤を見学し、裏参道(北参道)の明るい森と守りの中を下山します。

コース概要	S 羽衣白糸の滝 G 角瀬(バス停)
	距離: 約12km 所要時間: 約10時間(休憩時間を除く) ※高低差約1100m。山道(未舗装)。敬慎院～山頂を往復する場合はプラス約1時間半
その他 関連情報	索道で荷物を預けることができます(片道500円、要問合せ)。 角瀬バス停から羽衣白糸の滝まではタクシーが利用できます。



羽衣白糸の滝

徳川家康の側室、お万の方がこの滝に打たれて身を清め、女人禁制だった七面山の登詣を果たしたと伝えられています。お万の方の登山後、七面山の女人禁制が解かれ、より多くの参拝者が訪れるようになりました。滝の側にはお万の方の銅像があり、白糸の滝は「お万さまの滝」の愛称でも知られています。



敬慎院

全国各地に祀られている七面大明神の本社です。「摩尼殿」と呼ばれる本殿は拝殿、幣殿、奥殿からなり、「七面造り」と呼ばれる独特の建築様式で、富士山に向かって東向きに建てられています。拝殿の左側には、信徒千人ほどが宿泊できる参籠殿などがあります。



七面山山門

赤沢宿から羽衣橋を渡ると、七面山敬慎院の表参道の登り口があります。登り口には山門があり、「元丁目」と書かれた石灯籠が立っています。この場所から七面山敬慎院までは50丁あり、1丁(約109m)ごとに石灯籠が立てられています。山門から七面山敬慎院までは、4、5時間の道のりです。



隨身門

御来光遥拝所の前に立つ門です。1921(大正10)年再建。富士山が見える日は、隨身門の内側に富士山が望めるため、富士山が額縁に縁取られたような絶景となります。また、春分の日、秋分の日には富士山山頂から朝日が昇るダイヤモンド富士が見られるため、この日は多くの写真愛好家が訪れます。



和光門

表参道の46丁目、七面山山頂の入口に立つのが和光門です。どっしりと重厚な門の屋根には七面大明神の紋章が施され、扁額には和光閣と記されています。この門のすぐ先に七面山敬慎院があり、和光門から山頂にかけては、七面大明神の神域とされています。



池大神宮

池大神は七面大明神が祀られる以前から七面山の守護神として崇められ、雨畑地域に住む人々が勧請したと伝えられています。池大神の神像は老翁の姿をしており、役行者とも呼ばれています。現在の御堂は1950(昭和25)年に改修されたものです。

奥之院

眺望の良い場所に立つ社殿です。影礮石の前にあるため「影礮の宮」とも呼ばれています。社殿は延宝年間に日達上人によって建立されました。宝暦年間に本殿と社殿が再建され、さらに1887(明治20)年にも建て直されています。



七面山のダイチイ

七面山敬慎院奥之院の影礮石から東へ約400mの場所にある御神木で、山梨県指定天然記念物に登録されているイチイの大木です。その昔、木こりがこの木を倒そうとして幹に斧を打ち込むと赤い血が噴き出したため、神様が宿っているに違いないと伐採を中止したとのこと。以来、この木は七面山の御神木として大切に祀られています。



七面山の大トチノキ

北参道19丁目、安住坊の庭にあるトチノキの巨木です。六老僧の一人である日朗上人のお手植えと伝えられており、1959(昭和34)年に山梨県指定天然記念物に登録されています。根元の周囲は8m10cm、幹の周囲は6m80cm、樹高は25mほどで、四方に枝を張り出す堂々とした姿は神々しさを感じさせます。

